

Freedom



高校生の人権広報誌

“Freedom” 第7号

2011年10月11日発行

編集 “Freedom” 編集スタッフ

発行 奈良県高等学校人権教育研究会

毎月11日は「人権を確かめあう日」

東日本大震災、台風12号により被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

9月の台風12号に伴う大雨により、奈良県南部をはじめ多くの地域が被災しました。十津川高校のなかまや家族・卒業生も大きな被害を受けています。身近な人たちと一緒に、今後自分たちのできる支援について考え、取り組んでいきましょう!!



『東日本大震災』被災地への支援に取り組んで…

三月十一日以来、さまざまな支援活動が、県内の各学校でも取り組まれてきました。「今、私たちにできることは？」と考えるながら活動した多くの学校の中から、今回は二校に報告していただきました。

震災発生以降、多くの学校で、校内や街頭での募金活動が取り組まれてきました。今回は、NPOとも連携しながら募金に取り組んだ、奈良情報商業高校の“Freedom”スタッフに、参加記を寄せてもらいました。



私たちは、四月二十九日に桜井駅で募金活動を行いました。この募金活動は、三月十一日におきた東日本大震災復興のために、NPO法人『大和まほろば文化育成会』が中心となつて行った、阿波踊りなどの行事の一部として実施されたものです。この時には、震災から約一ヶ月が経っていました。未だに仕事ができな

いである方々、住むところもなく避難所暮らしを続けている方々、学校で勉強も出来ない児童や生徒たちなど、大変悲惨な状況の中で生活している方々がたくさんおられました。このような状況から、被災地の方々のために、少しでも何かの力になりたいと思ひ募金活動に参加することにしました。

私たちは、これまで何回か募金活動を行ったことがありま



す。その時には道行く人もなかなか振り向いてくれず、募金をしてください方もあまりいませんでした。しかし、今回の東日本大震災による巨大な津波は、一瞬にして多くの家や学校、ビルや工場、田や畑などを押し流しました。そして、二万人にも迫る人々の尊い命を奪い、また数え切れないほどの方の大切な家族や財産を奪いました。そんな状況もあり、人々の震災復興支援への思いや願いも高く、道行く多くの方々が募金をしてくださいました。中には多額の募金をしてくださいる方もありました。本当に感謝しています。

約半年が過ぎた今、募金をしてくださった一人ひとりの思いのこもった支援も届き、被災地は少しずつではありますが、復興のきざしを見せています。被災した学校の中には、体育館を板などで仕切って教室をつくり、勉強をはじめたところもあります。

しかし、被災地は、復興に向けてまだまだ多くの人の支援が必要だと思ひます。また、東北地方はもうすぐ長く厳しい冬を迎えます。これまでは異なった新たな支援が必要になつてくると思ひます。今後、どんな支援が必要なのかを具体的に考え、自分達のできる範囲で支援・協力をしていきたいです。

〈奈良情報商業高校 A・O〉

“Freedom”では、震災被災者の方々への「高校生からのメッセージ」を募集してきました。ホームページの掲載点数に制限があるため、各校で選定作業をされたところもありま



す。天理高校では、解放研の皆さんが作業に取り組み、その中で気づいたことを寄稿してくれました。

三月十一日発生した東日本大震災での、被災者の方々へのメッセージを、天理高校でも募集させていただきました。たくさん温かい言葉が集まりましたが、その中でよく目につく言葉がありました。それは「がんばってください」という言葉です。たしかによく使う言葉なのですが、その言葉が入っているメッセージは、何か心に引っかかるものがありました。

まず、「がんばる」は「頑張る」と漢字では書きます。これは「頑(かたく)なに意地を張る」ということから字が当てられているそうです。意味としては、困難にめげないで我慢してやり抜くという意味を持っています。

「がんばる」という言葉にこんな意味があるとは知りませんでした。私たちが何気なく使っていた「がんばる」は、そんな深い意味ではなく、「がんばる」というあいまいなイメージで使っていました。

しかし、それは分かったものの、メッセージから感じられた違和感が無くなりません。更に調べてみると、ニュースで被災者の言葉の中に、「がんばれと言われるのがつらい」というものがありました。本当につらい思いをした被災者からすれば、精一杯がんばっているのに、これ以上何をがんばればいいのか? というように感じられるのです。私たちが日常的に使っている「がんばれ」では、あまりに軽率なのではないでしょうか。その上、メッセージにあった「がんばれ」や「がんばってください」は、取られ方によっては、自分関係ない、といった身勝手な言葉のようにも感じられます。これが、あの違和感の原因でした。大切な言葉も場合によっては反感を買ってしまうこともあるのです。

最後に、ニュースやインターネットによれば、被災者の方が言われて嬉しい言葉の中に「無理せず」や「ゆっくりでいいから」などがあるそうです。そのような、被災者の身になって考えられた言葉が今、最も必要とされているのではないのでしょうか。

〈天理高校 解放研〉

※奈良県高等学校生徒会連絡会では、今年八月に、三・一校・七九名の生徒が宮城県や岩手県の被災地で支援活動を行いました。(奈良県HP http://www.pref.nara.jp/secure/65294/H230829sei_tokai.pdf 参照) 次号では、参加者のインタビューを掲載する予定です。ご期待ください。

高解研 研修交流会 参加体験記

二〇一一年六月二十六日(日)に桜井市立中央公民館で高解研の研修会と交流会に参加しました。当日は六校、十八名の参加があり、研修会では点字を学ぶ体験をしました。盲学校の鈴木直樹先生に、楽しく教えていただきました。点字は、今から二〇〇年ほど前に、「ルイ・ブライユ」という目の見えない青年によって発明されたそうです。それを聞いた時、本当にすごい人だと思いました。また、数字やアルファベットなども点字で表せます。点字は、基本は六個の点です。その点の母音部が「あ・い・う・え・お」を表して、それと子音部とを組み合わ



せて作られました。最初は、簡単そうでしたが、実際やってみると、子音部を覚えるだけで、大変でした。それに加え、数字は「ア・イ・ウ・ル・ラ・エ・レ・リ・オ・ロ」で表して、その前に、数字が始まる点字を置きます。この数字を表す点字を覚えるのはとても難しく、この日だけでは覚えられませんでした。また、点字のルールは覚えられなくても、普段読むときは、そう簡単に読めるものではありません。頭の中で混乱してしまいます。これを覚えられる人は、本当にすごいと思いました。

就職差別と近畿統一用紙の学習を通して…

～帝塚山高校スタッフが、3年生の人権HRを紹介します!～

私は学校の3年生のHRで行われた人権の授業で、アメリカと日本の入社志願書について学習しました。私は初め、人権の授業をすると聞いていたので、入社志願書のプリントを配布された時、こんな所にも人権の問題があった事に驚きました。そのプリントを見ると、アメリカは名前、住所、電話番号、最終学歴など最低限度の事しか書かなくて良いそうです。そして個人の能力ややる気を重視しています。しかし、それに比べて日本の場合は、家族状況や資産などといった就職する上で全く関係のない事まで書かなくてはなりません。近畿では履歴書が統一されることにより、今その傾向が薄れつつあるといえど、そういった所を重視する考えは、日本人の心に深く根付いていると言えるのではないでしょうか。

この入社志願書は、現在では使用されていないらしいですが、「紙ではなく口」で、入社試験や入学試験の面接で今でも問われることが時々あるようです。私の学校でもこういった質問を面接で問われた時、「それは学校で答えなくて良いと言われていました。」と答えるように指導されていますが、なかなか企業や大学側に反抗しているように感じ気が引けて言いくいと思えました。しかし、試験を受ける者全員がそう答えることができれば、企業や大学側もこういった、本人の適性、能力、意欲に関係のない質問をすることはなくなるのではないかと思います。

(帝塚山高校 H・Y)

★**奈良情報商業高校人権クラブのボランティア活動を紹介!**★
「あしなが学生募金」に参加して
四月二三日、近鉄大和八木駅前で行われた「あしなが学生募金」に、生徒会のメンバーと一緒に私たち人権ク

お昼には、参加していた各校の解放研などの生徒や先生方、フリーダムのメンバーとチャプチェを作りました。チャプチェは、コリアン料理で、春雨を炒めた家庭料理です。最初、作り方を見た時は、「すぐにできるんじゃないか。」と思いましたが、春雨を入れて、ほかの野菜と炒める時、春雨がからんでしまっ、なかなか混ぜ合わせることができませんでした。作り方を教えてくださった先生や、同じグループで一緒に手伝ってくださった方、ほかの学校の先生方の助けもあり何とかできました。そのあと、作ったばかりのチャプチェとおにぎりを、グループでおいしく頂きました。

初めての参加で、すごく緊張しましたが、チャプチェ作りや、意見交流で、他の学校の参加者の方とも、打ち解けることができました。今では、参加して、本当によかったと思っています。また、次の課題として、今問題となっている「DV」や「デートDV」、東日本大震災の被災地への支援について、今自分たちに何ができるかなど、深く考えていきたいと思っています。

初めの参加で、すごく緊張しましたが、チャプチェ作りや、意見交流で、他の学校の参加者の方とも、打ち解けることができました。今では、参加して、本当によかったと思っています。また、次の課題として、今問題となっている「DV」や「デートDV」、東日本大震災の被災地への支援について、今自分たちに何ができるかなど、深く考えていきたいと思っています。



ラブも参加しました。この募金活動は、「東日本大地震・津波遺児」を支援するためのものです。

街頭でのボランティア活動に初めて参加したメンバーは、特に緊張感や不安感からなかなか大きな声が出せず、自分たちの思いが通行している方たちに伝わっていないかどうかが不安でした。そんな中、大人から子どもまで、たくさんの方たちに募金に協力して頂いたり、「がんばってね」と声をかけて頂くうちに、やりがいを感じ、少しでも被災地の人たちの力になろうという思いが強くなっていきました。最後には、小さかった声も自然と大きくなり、参加者全員が一体感を持って生き生きと活動することができました。

私たちは、小さな募金箱にあたたかい重みを感じながら、みんなの思いや願いが被災地の人たちに届けばいいな、と思いました。

(奈良情報商業高校 J・T)

車いすを奇贈

人権クラブでは、四年前から『プルタブ・アルミ缶回収運動』を始めました。この取り組みは『高校生の人権広報誌 Freedom』の第四号で紹介しましたが、プルタブやアルミ缶を八〇〇kg(潰したアルミ缶なら軽トラック六台分程度)を納入すると、車いす一台と交換できる制度を活用したものです。昨年度末、車いす一台と交換できる量を納入するという目標を達成する

ことができました。八〇〇kgという途方もない量のプルタブやアルミ缶を回収・納入する事ができたのは、



桜井市役所にて

人権クラブ員だけでなく、本校の生徒や保護者、先生方など、たくさんの方々の協力があったからだと思えます。感謝の気持ちと達成感でいっぱいです。

この車いすは、今年の三月十八日、桜井市役所の福祉課に奇贈させていただきました。たくさんの方のお役に立つことを願っています。

最後になりましたが、『高校生の人権広報誌 Freedom』第四号、人権クラブからの呼びかけなどを通して、私たちの活動をご理解ご支援してくださった多くの方々に厚くお礼申し上げます。

(奈良情報商業高校スタッフ一同)

高校生の人権広報誌

“Freedom” 第7号 (2011年10月11日発行)

編集 “Freedom” 編集スタッフ

発行 奈良県高等学校人権教育研究会

〒630-8133 奈良市大安寺 1-23-1

奈良県解放センター内

TEL 0742 (62) 5555 FAX 0742 (62) 5568

E-mail kodokyo@kcn.ne.jp

HP http://www1.kcn.ne.jp/~kodokyo/

※ご意見・ご感想や投稿などは、各校人権教育担当の先生または上記までお寄せください。

※本誌のバックナンバーは、高人教ホームページの「活動報告」にて閲覧できます。(「高人教」で検索してください)

※本誌の発行は奈良県教育委員会の事業委託を受けています。